

関西大学文化財保存修復研究拠点

Newsletter No. 4



النشرة الإخبارية العدد الرابع

معهد صيانة و ترميم التراث الثقافي
جامعة كانساي - اليابان

Contents

エジプト調査 2011年度	2
研究活動	4
その他の活動	10
三方よし	12
キャンパスマップ・表紙写真について ..	15



ICP 関西大学文化財保存修復研究拠点
Institute for Conservation and Restoration of Cultural Properties

エジプト調査 2011年度

2011年の夏の調査は、8月終わりより9月にかけて行いました。初めに、文化・都市班の森貴史氏、中澤務氏、吹田浩氏がカイト・ベイ要塞、アレクサンドリア国立博物館、ローマ劇場、ポンペイの柱、アンフォーシ遺跡、カタコンベを訪問し、古代エジプトの文化遺産とアレクサンドリアのヘレニズム時代の遺跡に関してヨーロッパの博物学、古典学、エジプト学の見地から比較研究を行いました。

次いでラマダーン（断食月）の終了後、古物最高評議会（Supreme Council of Antiquities）より調査開始の許可証を受けて、サッカラのイドゥートで作業を開始しました。サッカラのイドゥート遺跡では、伊藤淳志氏（地盤班）、西浦忠輝氏（保存修復班）、アフメド・シュエイブ氏（保存修復班）、アーデル・アカリシュ氏（保存修復班）、吹田浩氏（文化・都市班）が地下埋葬室の地盤強化の研究と実験を行いました。

これは、サッカラやギザの地域に特有なぜい弱な地下の構造を強化するためのものであり、我々がすでに数年にわたって調査を行ってきたものです。この地域には、地下に多くの埋葬室をはじめとする地下構造物がありますが、いずれにおいても落盤などの危険を抱えており、今年の地盤強化の実験の結果、良好な結果を得ることができたことで大きな成果となりました。この実験は、地盤班を中心にして保存修復班との協力、日本人研究者とエジプト人研究者の協力によって行われ、関西大学の文化財保存修復研究拠点の研究活動の特色を表したものにもなっています。



Site in Alexandria

この2011年の夏に我々が調査を開始した時、1月25日より始まったエジプト革命によって中断していた外国隊の活動が再開されたと新聞報道がなされました。この革命は、民主化の過程としてエジプト社会にも大きな混乱をもたらし、まだ完全に終息したわけではありませんでした。そのため、現地調査においても、どこの調査隊もセキュリティの観点から現地での発掘は結局行うことができず、倉庫のなかで遺物の整理や調査などを行っていたようです。幸いにして、我々の現地での活動は、このような制約は一切受けることなく、当初の調査実施計画を何の問題もなくすべて行うことができました。

また、岡絵理子氏（文化・都市班）は、昨年と同様にサッカラ村でフィールド調査を行いました。これによって、サッカラ遺跡に隣接する村落の特色を明らかにしつつあります。

調査期間において、伊藤淳志氏（地盤班）、西浦忠輝氏（保存修復班）、吹田浩氏（文化・都市班）が大エジプト博物館の保存修復センターを訪問しました。そして、エジプトでの保存修復の専門家オサマ・アブ・エル・ヒエル氏（保存修復センター事務局長）、フセイン・カマル氏（保存修復センター技術部長）、松田泰典氏（国際協力機構・大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト専門家）との交流を促進しました。

また、科学研究費によって、マスタバ（上部構造）の調査も行いました。これは、マスタバの劣化の状態を記録し、その原因を探るべく行ったものであり、安室喜弘氏（関西大学環境都市工学部）も、マスタバの精密記録作成のために参加しました。



Conservation Center, Grand Museum

At the end of last August, 2011, Takashi Mori (Culture and Town Group), Tsutomu Nakazawa (Culture and Town Group) and Hiroshi Suita (Culture and Town Group) visited Alexandria to observe the Qait Bay Fort, National Museum, Roman Theatre, Catacombs, Amud El-Sawari and Al-Anfushi Monuments. They compared the cultural heritages of ancient Egypt with archaeological sites of Hellenistic era from the point of Classical Archaeology, Natural History, and Egyptology.

Since we started these missions, Atushi Ito (Geotechnical Engineering Group), Tadateru Nishiura (Conservation and Restoration Group), Ahmed Shoeib (Conservation and Restoration Group), Adel Akarish (Conservation and Restoration Group) and Hiroshi Suita (Culture and Town Group) experimented on the soil stabilization of the burial chamber of ancient Egypt at Mastaba Idout in Saqqara. Eriko Oka (Culture and Town Group) did fieldwork at Saqqara village.

The purpose we had for the experiments on the soil stabilization was to reinforce the structure of burial chamber. Many structures similar to

the burial chamber in Saqqara have the same problem that they might cave in. As a result of the experiments, we made progress on the soil stabilization of the burial chamber.

During this mission, we heard news that foreign missions restarted to work after the revolution. Fortunately we didn't have any troubles in this regard and we could complete our mission.

Atsushi Ito (Geotechnical Engineering Group), Hiroshi Suita (Culture and Town Group) and Tadateru Nishiura (Conservation and Restoration Group) also visited the Conservation Center in the Grand Egyptian Museum and exchanged their ideas with Dr. Osama M. Abou El Khier (Executive Director), Dr. Hussein M. Kamal (Technical Director) and Dr. Yasunori Matsuda (Conservation Scientist, JICA).

Furthermore, Yoshihiro Yasumuro (Faculty of Environmental and Urban Engineering, Kansai University) participated in the research on the superstructure of Mastaba Idout. The research of the superstructure was supported by Grants-in-Aid for Scientific Research.



Mission in September, 2011

地 盤 班

伊藤淳志氏（関西大）と西形達明氏（関西大）は、イドウトの地下埋葬室の天井岩盤の一部についてアンカーボルトによる補強を実施しました。埋葬室西側の天井には母岩の風化による顕著な層状の分離があるため、これまで仮設のサポートにより剥落対策を行っていましたが、将来的な埋葬室の保存活用を踏まえて、アンカーボルトを打設するとともにサポートの一部を撤去しました。来年度には残りのサポート部分についてもアンカーボルトの打設を実施する予定です。なお、アンカーボルトの施工に当たっては、エポキシ樹脂による付着性と引抜き耐力を確認するため、事前にマスタバ近くの岩盤においてアンカーボルトの引抜き試験を行い、埋葬室天井での打設間隔や本数を検討しました。また、埋葬室岩盤全体の安定性を調査するため、継続して実施している亀裂変位データの収録を行い、岩盤の動向を分析しています。亀裂幅は季節（温湿度）により変動していますが、その量は微少でありまた周期的であることから、岩盤は安定していることが確認されています。

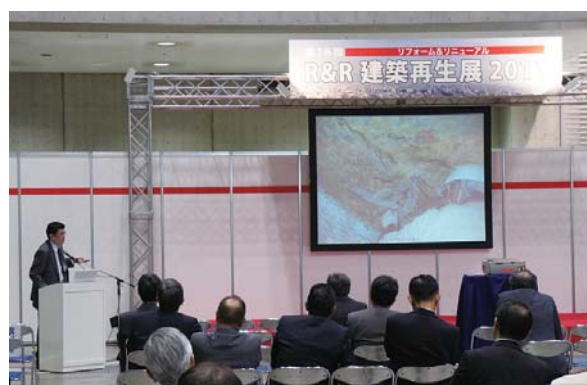
The Geotechnical Engineering Group carried out reinforcement using anchor bolts on a part of the ceiling in the burial chamber of Idout. There was a remarkable separation in the mother rock on the western part of the ceiling by weathering, for which temporal supports had been set up. They used anchor bolts and removed some of the supports. In addition, they carried out the pulling test of anchor bolt in the bedrock close to the mastaba of Idout for the confirmation of the adhesion of epoxy resin and the tensile strength of the anchor bolt, and examined the number and interval of the bolts on the ceiling in the burial chamber. They also recorded the data of crack displacements on the mother rock in the burial chamber, and analyzed the data. The crack width of rock changes with temperature and humidity, but the displacements are so small and periodic that the mother rock is considered to be stable.

平成23年（2011）6月

R&R建築再生展での講演

2011年6月1日（水）－3日（金）開催のR&R建築再生展（於：東京ビッグサイト）にて、伊藤淳志氏（関西大）が「古代エジプト・マスタバ埋葬室壁画保存修復」というタイトルで講演を行いました。

Atsushi Ito lectured on "Conservation and Restoration for Mural Painting in a Mastaba, Egypt" in the R&R Exhibition of Building Renovation 2011 at Tokyo Big Sight on June 1 (Wednesday), 2011.



平成23年（2011）8月

第20回日本エネルギー学会

2011年8月9日（火）－10日（水）、関西大学にて開催された第20回日本エネルギー学会で、伊藤淳志氏（関西大）が「古代エジプトの地下埋葬室壁画の保存修復プロジェクト」というタイトルで特別講演を行いました。

Atsushi Ito lectured on "Conservation Project for Ancient Mural Painting in a Burial Chamber, Egypt" at the 20th Annual Meeting of the Japan Institute of Energy, which was held at Kansai University from August 9 (Tuesday) to 10 (Wednesday), 2011.



保存修復班

2011年の夏には、イドウトのマスタバの地下埋葬室の継続的な環境調査を行うとともに、地盤班とともに埋葬室の岩盤の強化方法を検討しました。2011年1月末にエジプト革命の勃発によって中断していたイドウトの壁画の保全作業は、今年度の2012年3月から行うべく準備をしています。また、エジプト以外にも、中国の敦煌の文化財、ペルーのインカの文化財にも関心を広げて専門家との交流を進めています。2011年に発生した東日本大震災によって被害を受けた日本の文化財についても調査を行うなど、幅広く活動しています。

This summer, the Conservation and Restoration Group conducted environment research on the burial chamber at Mastaba Idout in Saqqara and discussed how to stabilize the rock of the burial chamber. From March 2012, they would restart the conservation work, which has been interrupted by the revolution in Egypt since the end of the January, 2011. Besides, they had contacts with specialists in other fields, and also had a study about the cultural properties that had been damaged by the great earthquake in Japan.

平成23年（2011）6月

文化財保存修復学会第33回大会での発表

2011年6月4日（土）－5日（日）、奈良県新公会堂にて文化財保存修復学会第33回大会が開催され、西浦忠輝氏（国土舘大）が口頭発表を行いました。発表タイトルは以下の通りです。

6月4日（土）セッション1

「ペルー、マチュピチュ遺跡の保存修復〔I〕

－遺構の劣化と保存に関する現地調査－

*当日、ポスターセッションも発表されました。

小野勇（国土舘大）、西浦忠輝（国土舘大）、松本健（国土舘大）、「古代ローマ都市遺跡の列柱道路の保存修復に関する研究〔Ⅲ〕－実際の保存修復作業（1）－」

The 33th Annual Meeting of the Japan Society for the Conservation of Cultural Property was held

at Nara Prefecture New Public Hall from June 4 (Saturday) to 5 (Sunday), 2011. Tadateru Nishiura gave a presentation.

"Conservation of Machu Picchu Archaeological Site, Peru (I): Site Investigation for Deterioration and Conservation of Remains."



平成23年（2011）8月

マチュピチュ遺跡の保存修復の調査

当拠点メンバーである西浦忠輝氏（国土舘大）が、マチュピチュ遺跡において、藤田晴啓東洋大学教授と共同で研究調査を行い、2011年8月1日の朝日新聞（朝刊）に紹介されました。実際の保存修復事業に向けての具体的な調査を2012年3月に行う予定です。

The research of Tadateru Nishiura in Machu Picchu was introduced in the Asahi Shimbun newspaper (morning edition). This research was conducted in collaboration with Haruhiro Fujita (Toyo University). They will start research for a conservation and restoration project at Machu Picchu in March, 2012.



平成23年（2011）7月～

福島原発事故の放射能と文化財

東日本大震災に伴う福島原発事故の影響が東北地方、関東地方で大きな問題となっています。屋外の文化遺産を調査する際には、放射能の影響がないかどうかを十分に調査する必要があります。西浦忠輝氏は、関係個所のガイガーカウンターによる計測を行っています。

The effect of the Fukushima nuclear accident has become a serious problem in Tohoku and Kanto areas. It should be checked carefully whether or not there is a radiation effect when we visit to research cultural heritages in those areas. Tadateru Nishiura uses a Geiger counter to measure the amount of the radiation.



平成23年（2011）9月

ポーランドの研究会に参加

アフメド・シュエイブ氏は2011年9月17日（土）から21日（水）までポーランドのトゥレクの教会で行われた学会にて発表を行いました。そこでアフメド・シュエイブ氏はX線装置を用いた非破壊テストの研究会にも参加しました。また、エヴァ・ロズネルスカ氏はメホフェル教会、ロント教会の壁画と別の教会の中世の壁画の保存に関する発表を行いました。ロズネルスカ氏の指導のもと行われているこの保存プロジェクトはEUによるサポートを受けています。

At a meeting held at the Church of J. Mehoffer NSPJ in Turek, Poland, from September 17 (Saturday) to 21 (Wednesday), 2011, Ahmed Shoeib discussed the conservation works and techniques of wall paintings. He also attended the

activities of the meeting as well as the workshop about non-destructive test related to portable X-ray fluorescence apparatus. Ewa Roznerska-Świerczewska presented her conservation work of the wall paintings in Mehoffer Church, in Łąd church and in another medieval chapel. Her project is supported by the European Union.



平成23年（2011）12月

ロズネルスカ氏にハビリタチオンを授与

2011年12月13日（火）にエヴァ・ロズネルスカ氏は壁画の修復の分野でハビリタチオン（教授資格）をニコラス・コペルニクス大学から授与されました。

On December 13 (Tuesday), 2011, Ewa Roznerska-Świerczewska has acquired Habilitation in the field of wall painting conservation from Nicholas Copernicus University, Poland.



文化・都市班

文化・都市班は、サッカラのイドウトのマスタバ墓を軸にして文化財の修復、保全、活用に貢献する研究を行っています。古代エジプト時代のサッカラのネクロポリス（死者の町）の実態の解明を進めるとともに、これと並行して古代ギリシアなど古代文明の文化財との比較研究、現代のヨーロッパが持っているエジプトの文化財のイメージの研究を進めています。また、サッカラ遺跡に隣接するサッカラ村の特色の解明も進めています。これらによって、古代のエジプトを軸に古代ギリシアから現代のエジプトとヨーロッパを包含して文化財の価値を明らかにしています。

The Culture and Town Group conducts studies about conservation, restoration and application of Cultural properties, which are based on the study of Mastaba Idout in Saqqara. At the same time, they have been conducting comparative research about the image of Egypt and other cultures. Through this research, they will bring out the value of cultural properties through a different perspective by discussing ancient Egypt and Greece, modern Egypt and Europe.

平成23年（2011）4月 学位論文の出版

森貴史氏（関西大）は、2011年4月にベルリン・フンボルト大学での学位論文 *Klassifizierung der Welt: Georg Forsters "Reise um die Welt"* を出版しました。

Takashi Mori published a thesis at Humboldt-Universität zu Berlin, *Klassifizierung der Welt: Georg Forsters "Reise um die Welt,"* on April, 2011.



平成23年（2011）夏期 サッカラ村調査

岡絵理子氏（関西大）のサッカラ村の調査も3年目になります。今年度は、サッカラ村の景観的魅力を見いだす調査として、古い建物の分布とファサード調査、モスクの分布、英雄の墓の分布を調べると共に、祭りについてのヒアリングも行いました。写真は、村の広場に鎮座する英雄の墓です。8月には村の人々が集まって、ごちそうを振る舞い、お祭りを行います。

Eriko Oka conducted a survey of Saqqara village for the third time. This year, to find its attractive view, she studied the distribution of old buildings, mosques, and graves in the village. She also researched the facades of the old buildings and interviewed villagers about the festivals of graves.

The photo below is a grave enshrined in a village square. In August, people gathered around the grave and offered a feast. This is one of the festivals in this village.



平成23年（2011）夏期 アレクサンドリア、オールド・カイロ調査

中澤務氏（関西大）、森貴史氏（関西大）は、2011年8月26日から31日までの期間、カイロとアレクサンドリア（吹田浩氏も参加）の博物館や遺跡を訪問し、調査および資料収集を行いました。なかでも、かつては古代の7不思議のひとつとして有名だったアレクサンドリアの灯台跡にあるカイト・ベイ要塞、古代の地中海で最高の知が集積されていたアレクサンドリアの図書館跡、カイロでは、オールド・カイロと呼ばれる旧市街のコプト教教会、シナゴグなどは、エジプトにおけるイスラーム文化の普及以前の古代ヨーロッパ文化との関連を看取

できるもので、非常に興味深い調査になりました。

Tsutomu Nakazawa and Takashi Mori visited museums and ancient historical sites in Cairo and Alexandria (Hiroshi Suita joined here) to collect research information from August 26-31, 2011. Among them, they were interested in the Citadel of Qaitbay at the Lighthouse of Alexandria, which is well known as one of the Seven Wonders of the World, the Ancient Library of Alexandria, which was the largest and the greatest library of ancient world, the Church of St. George and a synagogue in Old Cairo. They gained some interesting leads for their research by seeing the correlation with ancient European culture before Islamic culture was spread among people in Egypt.



技術開発班

技術開発班は、エジプトの文化財に使われている有機物の分析、カビの特性の分析と抗菌技術の開発、イドウトの壁画修復に必要な接着剤の研究などを進めています。これらは、エジプトの古代壁画を修復する際の前提となる技術の開発です。メンバーは、エジプトの専門家であるアフメド・シュエイブ氏やアーデル・アカリシュ氏とも綿密な打ち合わせを行い、エジプトの文化財が抱える問題点を踏まえた上で、日本とエジプトの文化財にかかわる技術を結び付け、文化財の保全に役立つ技術を開発しようとしています。

The Technology Development Group has done research on the analyses of organic substances, characteristic features of mold, the development of

antibacterial techniques and adhesive materials of restoration for mural paintings in Mastaba. These are basic research studies which are needed to preserve the mural painting of ancient Egypt. They had meetings with Ahmed Shoeib and Adel Akarish to consider issues that the cultural properties had and they developed techniques that were useful to conserve the properties by connecting Japanese and Egyptian techniques related to cultural properties.

平成23年（2011）3月

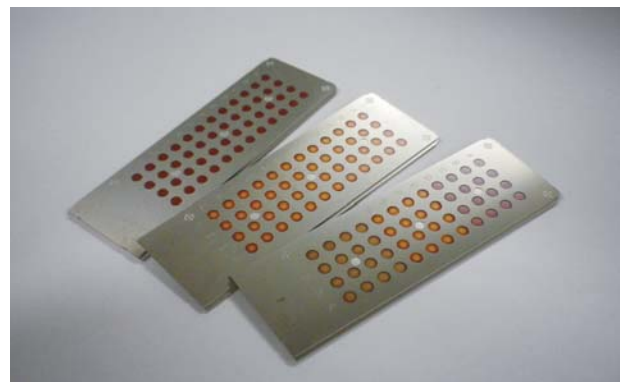
イオン化技術の開発

荒川隆一氏（関西大）と川崎英也氏（関西大）が、大日本塗料、島津製作所とともに顔料分析を質量分析に応用し、質量分析を可能にする酸化鉄ナノ粒子を用いた分子のイオン化技術を開発しました。検出感度も従来技術と比べて100万倍に精度を高めました。

この開発は、医療分野へ応用されますが、当拠点が行っている文化財の修復作業での顔料表面の有機物の分析においても適用可能です。

Ryuichi Arakawa and Hideya Kawasaki applied mass spectrometry to pigment analysis in collaboration with Dai Nippon Toryo and Shimadzu Corporation, and they have developed an ionization technology of molecular using iron oxide nanoparticles under mass spectrometry. The detection sensitivity of this technology has enhanced its accuracy a million times better than conventional techniques.

This development will be applied to the medical field. In addition, it is expected to analyze organic materials on pigment surfaces for the conservation and restoration work of cultural properties.



平成23年（2011）8月

日本防菌防黴学会第38回年次大会

2011年8月30日（火）－31日（水）、日本防菌防黴学会第38回年次大会（於：千里ライフサイエンスセンター）で、土戸哲明氏（関西大）が基礎講座および一般発表にて、高鳥浩介氏（東京農業大）がシンポジウムにて発表を行いました。

基礎講座

土戸哲明、「微生物とは何ものか？その生と死をめぐって」

口頭発表

涌田恭兵、廣池晋治、岡本光由、久米田裕子、高鳥浩介、土戸哲明、「エジプト遺跡から採取したカビの同定と古代壁画モデルとしての彩色石片上でのカビの発育挙動」

シンポジウム

高鳥浩介、「カビ胞子を知るそして抑える」

The 38th Annual Meeting of the Society for Antibacterial and Antifungal Agents, Japan, was held at Senri Life Science Center from August 30 (Tuesday) to 31 (Wednesday), 2011. Tetsuaki Tsuchido and Kosuke Takatori gave presentations.

Basic Lecture:

Tetsuaki Tsuchido

"What is a Microorganism? : Its Survival and Death."

Presentation:

Kyohei Wakuta, Shinji Hiroike, Mitsuyoshi Okamoto, Yuko Kumeda, Kosuke Takatori and Tetsuaki Tsuchido

"Identification of Fungi Isolated from Specimens Taken at Egyptian Cultural Property Sites and Behaviors of Fungal Growth on the Painted Stone Chips as Model Mural Painting."

Symposium:

Kosuke Takatori

"The Fungal Identity and Control."

平成23年（2011）8月

中国での敦煌の壁画調査

2011年8月5日（金）－11日（木）、吹田浩氏（文化・都市班）、土戸哲明氏（技術開発班）、中村吉伸氏（技術開発班）、高鳥浩介氏（技術開発班）、アーデル・アカリシュ氏（保存修復班）、アフメド・シュエイブ氏（保存修復班）が敦煌研究院（Dunhuang Academy）を訪問し、壁画の保全状況について調査を行いました。

莫高窟や西千佛洞を未公開のものを含め実見し、修復作業を行っているところでその説明を受けました。

また、国家古代壁画保护工程技术研究中心（National Research Center for Conservation of Ancient Wall Paintings）、デジタルテクノロジーセンター、インフォメーションセンターを訪問し、吹田氏とシュエイブ氏が講演を行いました。

この調査では、古代エジプトの壁画と比較しながら、敦煌研究院の研究者と技術的な意見交換を有意義に行うことができました。

From August 5 (Friday) to 11 (Thursday), 2011, Hiroshi Suita (Culture and Town Group), Tetsuaki Tsuchido (Technology Development Group), Yoshinobu Nakamura (Technology Development Group), Kosuke Takatori (Technology Development Group), Adel Akarish (Conservation and Restoration Group), and Ahmed Shoeib (Conservation and Restoration Group) visited Dunhuang Academy to see the conservation of wall paintings.

Not only did they see the mural paintings at the Mogao Grottoes, but also the Western Thousand Buddha Caves and other historical places. They received explanations about them at the sight where the restoration was going on.

They also visited the National Research Center for Conservation of Ancient Wall Paintings. Ahmed Shoeib and Hiroshi Suita had a workshop on the conservation of Egyptian painting there.

In this trip, they could compare the issue of conserving the wall paintings in China to the ones in ancient Egypt and they exchanged views with local researchers.





平成23年（2011）12月

カイロ大学交換研究員との共同研究

カイロ大学考古学部のアフメド・シュエイブ氏とマイサ・マンスール氏が、関西大学にて交換研究員として研究を行いました。シュエイブ氏は拠点の文化・都市班や技術開発班の多くのメンバーと活発な意見交換と共同研究を進め、マンスール氏も土戸哲明氏（技術開発班）と共同研究を進めました。

Ahmed Shoeib and Maisa Mansur, Cairo University, conducted research as exchange scholars at Kansai University. Ahmed Shoeib exchanged his opinions with the members of the project. Maisa Mansur also had a cooperative study with Tetsuaki Tsuchido.



Discussion at Osaka Institute of Technology

その他の活動

平成23年（2011）5月

川崎英也氏が日本質量分析学会奨励賞を受賞

川崎英也氏（技術開発班）が日本質量分析学会より2011年度奨励賞を受賞しました。9月13日（火）－15日（木）に開催された第59回質量分析総合討論会（於：ホテル阪急エキスポパーク）にて、「機能性金属ナノ粒子を利用したレーザー脱離イオン化質量分析法」というタイトルで受賞講演を行いました。

Hideya Kawasaki (Technology Development Group) received an incentive award in 2011 at the Mass Spectrometry Society of Japan. At the 59th Annual Conference on Mass Spectrometry, which was held from September 13 to 15, 2011, he delivered an award lecture titled "Laser Desorption/Ionization Mass Spectrometry using Functional Metal Nanoparticles."



右から3番目 The third from the right

平成23年（2011）7月

エル・ホレイヤによるエジプトの伝統舞踏

2011年7月21日（木）に関西大学にて、駐日エジプト・アラブ共和国大使館文化・教育・科学局との共催のもと、「エジプトの舞踏－伝統と現代の文化－」を開催しました。

今回、公演していただいたエジプトの『エル・ホレイヤ民族舞踏団』は、アレクサンドリアに本拠地

をおくエジプトの国立民族舞踏団です。

また、当大学のベリーダンスサークル『Belly Divas』もベリーダンスを披露しました。

エル・ホレイヤによる演目は以下の通りです。

1. ファラオニ（古代エジプト風のダンス）
2. タンヌーラ（スーフィーの旋回舞踏）
3. ヌーバ（ヌビア地方のダンス）
4. ラーサット・ホサーン（馬のダンス）
5. マーラー [セムセメイヤ]
(スプーンを使ったダンス)

The performance of Egyptian dance was held under joint sponsorship with Embassy of the Arab Republic of Egypt (Culture, Education and Science Bureau) at Kansai University on July 21 (Thursday), 2011.



The Egyptian National Folk Dance Troupe "El-Horria" performed a folk dance and Kansai University's dance circle "Belly Divas" performed a belly dance.



The performance for "El-Horria" was as follows:

1. Pharaonic Dance
2. Sufi Dance
3. Nubian Dance
4. Horse Dance
5. Spoon Dance with Semsemiya



紀要「セマウイ・メヌ」第3号の発行

当文化財保存修復研究拠点の紀要として「セマウイ・メヌ」(*smawy mnw*)の第3号(2011年度)を発行しました。「セマウイ・メヌ」は、古代エジプト語で「文化財を修復する」という意味で、当拠点が古代エジプトの文化財を中心に活動していることに因んだ名前です。「セマウイ」は、「新しくする」や「修復する」を意味し、「メヌ」は「記念物」や「文化財」を意味します。古代エジプト人も、修復作業を行った時には、「セマウイ・メヌ」という言い回しを使っていました。

As Journal of the Institute for Conservation and Restoration of Cultural Properties, we published volume 3 (fiscal year 2011) of "Semawy Menu" (*smawy mnw*). "Semawy Menu" in ancient Egyptian means "restoration of cultural properties." We named the Journal after the project that we have been working on for the cultural properties of ancient Egypt. "Semawy"  means "renovating" and "restoring." "Menu"  means "monuments" and "cultural properties." The ancient Egyptians also used the word — Semawy Menu — in the text when they did a restoration.

Semawy Menu Volume 3

سماوي منو



セマウイ・メヌ

معهد صيانة و ترميم التراث الثقافي

جامعة كانساي- اليابان 2011

Institute for Conservation and Restoration
of Cultural Properties
Kansai University, Japan
2011

三方よし

三方よしという表現を聞いたことはありますか？日本人なら知っているかもしれませんが、あるいは知らないかもしれません。三方よしとは江戸時代に近江商人たちによって築かれた経営理念に由来し、売り手よし、買い手よし、世間よしという考えです。約300年前に築かれたにもかかわらず、この理念はこれまで私たち日本人にとって大きな役割をはたしてきました。では三方よしの理念とは一体何なのでしょう？そしてそれは今の私たちにとって価値のあるものなのでしょうか？

はじめに、近江商人とは一体どのような人たちであったのでしょうか？彼らは江戸時代から明治時代にかけて活躍した商人です。彼らは旧国名近江、現在の滋賀県に属する地域で栄えました。彼らは近江に本宅を構えていましたが、活躍の場は近江国外でした。

そんな彼らは持下り商いという商法に従事しました。持下りとは、郷土の産物などを地方へ持って行って売り、地方の産物を仕入れて上方で売りさばくという商品の販売と仕入れを行う商業活動でした。この持下りによって富を蓄積した近江商人は、その富によってさらに活躍の場を広げていきました。

しかしこの持下り商いはそれほど簡単なことではありませんでした。なぜなら持下り商いは、一回きりの売込みではなく、自分が見込んだ国や地域へ毎年出かけ、地縁や血縁もないところに得意先を開拓し、地盤を広げていかなければならなかったからです。そのため彼らは行商先の人々からどうしても信用を得る必要がありました。その信用を勝ち取るために彼らが心がけていたことは、自分の利益だけを考えて一挙に高利を望むようなことをせず、なによりも行商先の人々の立場を尊重することを第一に考えるべき、というものでした。そして後にこれが三方よし理念の起源となりました。

では一体三方よし理念とは何なのでしょう？すでに一度上で述べたように、これは近江商人たちによって築かれた商業理念のことなのです。彼らは持参した商品には自信を持ち、全ての人に気持ち良く使ってもらうことを心がけました。さらには、自己中心な考えをもつのではなく、商売相手、そしてさらには社会全体をも思いやることこそが最も重要だ

と考えたのです。謙虚さと真心こそがこの三方よしを理解する鍵なのです。

しかしこの三方よしを理解し、今の私たちの社会にあてはめて本当に意味があるのでしょうか？実は意味はあるのです。なぜなら三方よしは今でも私たちの社会で実際に生きているからです。この10年の間に様々なこと、たとえば最近で言うならリーマンブラザーズの破綻による大不況やそれによって生じる貧富の格差、グローバル化によって生まれた人々の紛争や暴動、そして様々な金の問題などがありました。そんな中、三方よし理念は日本の企業などによってゆっくりと着実に広まってきているのです。今私たちに求められているのは、他者のことを考え、思いやり、社会の一員として社会全体のためにできることをする、ということではないでしょうか？



(Town of Omi merchants)

The Sampo-Yoshi Spirit

Have you ever heard about Sampo-Yoshi (three-way satisfaction)? Sampo-Yoshi is a business philosophy made by Omi merchants during the Edo Period (1600-1868) in Japan. This philosophy teaches that what benefits you should benefit your partner as well as the whole society. Despite the fact that this philosophy was created more than 300 years ago, the philosophy is still relevant today. So what is the Sampo-Yoshi spirit and why is it important for us? Let's have a look.

First, who is an Omi merchant? Omi merchants

made their name as merchants who appeared in Japan from the Edo period to the Meiji period, and who flourished around Omi, which is an old province of Shiga prefecture. The merchants had their base at their home, Omi, but they developed their business outside Omi.

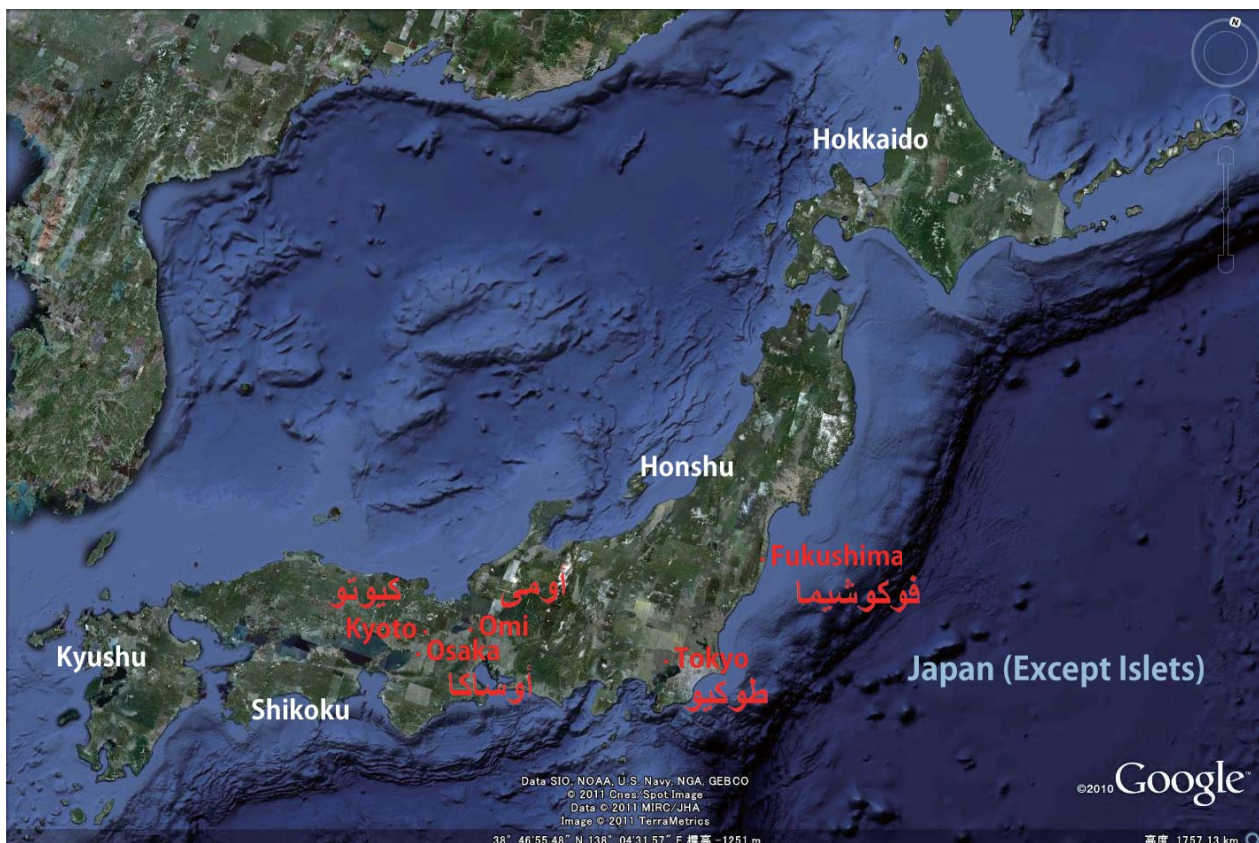
Their way of trading is called Mochikudari. The merchants brought products from their home to local areas and sold them to get different unique products from locals. Then they sold these unique products to people who were living in other areas, thus making a lot of money and at the same time, expanding their horizons.

However it was not an easy business for them because Mochikudari was not a one-time trade, but a long-term strategy. The merchants had to visit places where they had never been. When visiting other places, what the merchants cared most about was credibility from customers. To get such credibility they thought they had to control their desire for obtaining large profits and they had to respect others with whom they traded. This became the origin of the Sampo-Yoshi spirit – what

benefits one should benefit trading partners and the community.

What the Sampo-Yoshi spirit is should be clearer now as a business policy made by the Omi merchants. Not only did the merchants have confidence in their merchandise, but they also believed in caring for the comforts and well being of their partners and society as a whole without self-centeredness. Being humble and showing devotion to people are the hallmarks of the Sampo-Yoshi spirit.

Sampo-Yoshi is a valuable idea even in the context of modern society. With a recession now in many countries, partly caused by the housing and mortgage lending crises in the U.S., the large difference between the rich (the 1%) and the poor (the 99%) is getting even worse. Unfortunately, greed and scandal have spread around the world. For this reason we need to go back to the Sampo-Yoshi spirit. It is time to care about other people and to work for and with other people as partners and as members of a society.



روح سامبو يوشى

الأمم. لذلك هم زاروا الأماكن التي لم يزوروها من قبل والتي تشكل أرضية مستقبلهم. ومن أجل إتمام هذه العملية أكثر ما إعتنوا به هو المصداقية من العملاء. للحصول على مصداقية ظنوا أنهم كان لديهم رغبة فى السيطرة من أجل الحصول على أرباح كثيرة والحصول على إحترام الآخرين. فأصبح هذا هو أصل (منشأ) روح سامبو يوشى.

فما هى الروح سامبو يوشى؟ كما ذكرت أعلاه أنها فكرة عمل تجارى تمت بواسطة تجار أومى. كان لديهم ثقة فى البضائع التي جلبوها وما كانوا يريدونه هو أن يكون كل شخص قادر على إستخدام البضائع (السلع) مع الراحة. وعلاوة على ذلك يعتقدوا أن أهم شئ هو عدم الأنانية ولكن عناية كبيرة بشركاء أعمالهم والمجتمع بأسره كذلك. التواضع والإخلاص للناس هو مفتاح فهم هذه السياسة وهى (روح سامبو يوشى).

هل هذا حقاً يستحق الفهم والتكيف مع هذه السياسة؟ نعم هو كذلك. لأن سامبو يوشى هى فكرة قيمة حتى فى سياق المجتمع الحديث. كانت هناك أشياء كثيرة حدثت فى السنوات العشرة الأخيرة مثل الركود فى العالم الذى بدأ بإفلاس بنك ليمان براذرز الذى يقود إلى إختلاف كبير بين الغنى والفقير، النزاعات وأعمال الشغب بين الناس التى تقودها العولمة ومشاكل الأموال التى حدثت داخل اليابان. وفى الوقت نفسه بدأت هذه السياسة فى إتخاذ مثل فكرة الشركات والمكاتب فى اليابان. وهذا ما يعنى أن هذه الفكرة إنتشرت تدريجياً. ما يجب علينا القيام به الآن هو التفكير والعناية بالآخرين والعمل لهم باعتبارهم عضو فى مجتمعنا. ما رأيك فى هذا؟ الكرة فى ملعبك.

هل سمعت قبل ذلك عن تعبير 三方よし (روح سامبو يوشى)؟ فى حالة اذا كنت يابانى ربما تكون الاجابة نعم أو لا. (روح سامبو يوشى) 三方よし هى فكرة عمل تجارى صنعت بواسطة تجار اومى خلال عصر ايدو فى اليابان من سنة 1600 حتى سنة 1868 وذلك يشير الى ما هى الفوائد التى يجب أن تفيد بها شريكك وكذلك المجتمع كله. على الرغم من حقيقة أنه تم اجراء هذا أكثر من ثلاثمائة سنة مضت إلا أن هذا العمل يلعب دور كبير بالنسبة لنا كيابانيين حتى الآن وبالتأكيد من الآن فصاعداً. فما هى روح سامبو يوشى ولماذا هو جدير بالنسبة لنا؟ دعونا نرى.

أولاً: من هم تجار أومى؟ هم جعلوا اسمهم كتجار ظهوروا فى اليابان من عصر ايدو حتى عصر ميجى، هم الذين إزدهروا حول أومى التى هى مقاطعة شيغا القديمة وكان لديهم قاعدة فى وطنهم أومى ولكنهم طوروا عملهم خارج أومى.

يسمى طريق التجارة (موتشيكو دارى). ما كانوا يفعلونه بالمنتجات أنهم إشتروها من أوطانهم إلى المناطق المحلية وباعوها للحصول على منتجات فريدة من نوعها تختلف عن المحلية. وبعد ذلك حصلوا على أموال هائلة عن طريق بيع هذه المنتجات الفريدة من نوعها الى الناس الذين يعيشون فى المناطق الأخرى وتوسعت آفاقهم.

ومع ذلك هو لم يكن عمل سهل بالنسبة لهم لأن (موتشيكو دارى) لم يكن عرض لمرة واحدة بل كان استراتيجية طويلة

Thank You for Your Support

On March 11, 2011, the Great East Japan Earthquake and tsunami hit Japan. In the Tohoku area where the earthquake and tsunami hit, thousands of lives and livelihoods are still suffering. Of course, the cultural properties are no exception. Although people who live there have been devastated by the situation, they have been struggling against these difficulties. Our city, Osaka, was not affected much by the

earthquake, but we also received many heartwarming messages and goodwill gestures from around the world. We appreciate this support and the messages from around the world. The recovery in the Tohoku area continues and we will do our best to aid in that recovery and rebuild that area as well as other affected areas in Japan.

Thank you all so much for your support.

キャンパスマップ



表紙写真について

表紙の写真は、ダハシュールにあるスネフェル王の屈折ピラミッドです。高さは、100メートルほどになります。スネフェル王は、クフ王の父であり、第4王朝の王です。我々が調査しているサッカラでは、第3王朝時代のピラミッドが初めてのピラミッドとしてまだ階段状の形をしており、その高さも60メートル少しでした。

スネフェル王は、メイドウムに1つ、ダハシュールに2つのピラミッドを作りました。巨大な石造建築物を作るのは、実はかなり高度な技術が必要です。メイドウムのピラミッドは、地盤が軟弱であり、現在では崩壊しています。表紙の屈折ピラミッドは、彼が2番目に建造したものです。このピラミッドが途中で屈折しているのは、やはり、軟弱な地盤によってピラミッド内部に亀裂が発生し、崩壊を恐れて、角度を緩めたと考えられています。

いずれにせよ、スネフェル王は神聖な墓に欠陥が発覚したことですぐと落胆したことでしょう。彼は、同じダハシュールで3つ目のピラミッドの建造に挑戦しました。これは、無事成功し、今日も初

めの真正ピラミッドとして立派に残っています。

この屈折ピラミッドは、真正ピラミッドの建造を成功させるための貴重な経験と技術開発をエジプト人にもたらしたことでしょう。この経験と技術開発が、クフ王に高さ150メートルという史上最大のピラミッドを建造させ、今日、世界中の人々をエジプトに訪問させることにつながったはずです。

我々の文化財保存修復研究拠点も、いろいろな試行錯誤を経ながら、経験の蓄積と技術の開発を続けています。





発行日：2012 年 3 月 8 日

発 行：関西大学文化財保存修復研究拠点

〒 564-8680

大阪府吹田市山手町 3 丁目 3 番 35 号

Tel：06-6368-1456

Fax：06-6368-1457

March 8, 2012

Institute for Conservation and Restoration
of Cultural Properties, Kansai University

Address：3-3-35 Yamate-cho, Suita-shi, Osaka

564-8680 JAPAN

Tel：+81-(0)6-6368-1456

Fax：+81-(0)6-6368-1457

Copyright © 2012 Institute for Conservation and Restoration of Cultural Properties,
Kansai University. All right reserved.